

佳作

つばめ

茨城県 日立市立豊浦小学校二年 木田 成美

わたしの家に、つばめのすができました。田んぼのわらやどろをつかって、じょうずに作っていました。すができてから、つばめがすにいることがふえました。げんかんをあげると、びっくりしてにげてしまいます。とくにあさは、お父さんやおねえちゃん、おにいちゃんが、かいしゃや学校に行くので、つばめもにげたり、もどってきたりして、大いそがしです。

ある日、すの下にたまごのからがおちていました。二、三日ごにもまた、たまごのからがおちていました。二このたまごをうんだと思いました。

お母さんは、つばめのすができてから、よごれているすの下を気がつくたびにそうじをしています。どろやわらは、そんなにきたないとは思いませんが、ふんはきたないのでえらいなと思いました。

たまごのからをはっけんしてから、しばらくすると、

「ピ。ピ。ピ。ピ。ピ。ピ。」

と、なきごえが聞こえてきました。「つばめの赤ちゃんのこえだ」。すがたは、見えなけれど、たしかに赤ちゃんがいると思うと、とてもうれしくなりました。

ひながうまれてからは、親つばめたちは、えさをいそがしそうにはこんでいます。気づくとひなは、四ひきいました。たまごのからは二こしか見なかったので、四ひきもいてびっくりしました。ひなはいっしょうけんめい首をのばして、口を大きくあけて、親つばめからえさをひっしにもらおうとしています。さいしょはあたましか見えなかったのに、日にちがたつごとに、からだも見えるようになりました。毛もはえてきています。すの下にはふんだけではなく、とんぼやガがおちていることもありました。きっと、えさとしてはこんできたのだと思います。

ひなたちがなくなつたのでためしに

「ピ。ピ。ピ。ピ。」

わたしがなきまねをすると、ひなたちも、

「ピ。ピ。ピ。ピ。」

となきかえしてきたこともありました。

まだ夏休みは、はじまったばかりですが、きっとおわるころには、四ひきのひなたちもりっばにせいちょうして、すからとびだって行くと思います。

何もないところに一からすを作り、たまごをうみ、あたためて、ひながかえつてからは、休むひまもなく、えさをはこびつづける親つばめはすごいと思います。人間もいっしょで、子どもをそだてていくのは、大へんだと思うので、はたらいているお父さんや、家のしごとをしているお母さんに、かんしゃしたいと思います。つばめのひなたちのように、なかよしきょうだいであってほしいです。